

# “現場を待たせない” ワンデーレスポンスの取組について

～具体的な取組と期待される効果～



監 督

国土交通省北海道開発局事業振興部  
技術管理課長 石橋良啓

## ワンデーレスポンスの実施に至った経過

平成16年度 監督業務等に関する調査



業界へのアンケート調査(263社)

内容:北海道開発局における現場対応での苦慮事項・発生頻度・最近の監督員の変化等

対象:北海道開発局発注工事現場代理人等経験者

協力:北海道建設業協会土木委員会

## アンケート結果(マイナス評価)

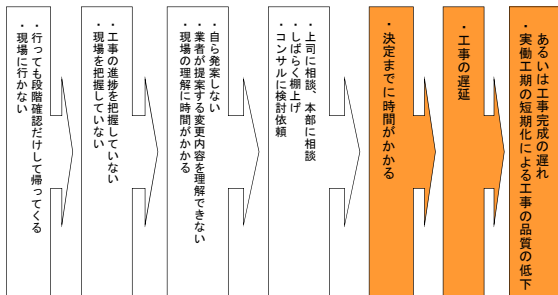
内 容	件数及び率
協議未了で発注(用地買収、支障物件、協議等)(発注時の条件明示が不足。)	[63件 (24%) ]
当初設計が悪く、変更のための時間を要する	[55件 (20.9%) ]
変更打ち合わせ後に結論を出すのに時間がかかりすぎ	[30件 (11.4%) ]
現場が止まることに何とも思っていない 工事の進捗に無頓着になった	[25件 (9.5%) ]
工事発注前の事前調査不足(支障物件など)	[17件 (6.5%) ]
監督員がマニュアルにとらわれすぎ、現場の状況に応じた判断ができない	[16件 (6.1%) ]
コンサルに頼りすぎ・コンサル業務の遅れで作業がストップすることがある	[12件 (4.6%) ]
監督員が上司に相談しない→自分で判断しない(結論が出るのに時間がかかっている。)	[10件 (3.8%) ]
着手遅れや中断のため冬期に施工(費用を見てもらえない)	[6件 (2.3%) ]
用地課など内部の意志疎通が悪いのでは?	[2件 (0.8%) ]

## アンケート結果(プラス評価)

内 容	件数及び率
工事の安全確保について詳細な指示・確認が良く行われるようになった	[42件 (16.0%) ]
段階確認で現場に良く来てくれる 現場の都合に合わせて来てくれる	[26件 (9.9%) ]
工事の施工状況について詳細な指示・確認が行われる。 協議事項は確実に検討し、詳細に指示・回答してくれる	[16件 (6.1%) ]
話しをしやすい・甲乙平等の立場で接してくれる	[14件 (5.3%) ]
メール等で密に指示・確認してくれる	[12件 (4.6%) ]
設計条件・工事状況・協議事項等比較的密に対応してくれる	[10件 (3.8%) ]
設計変更で対応できない理由など詳細に説明してくれる	[10件 (3.8%) ]
設計変更等細かく見てくれる監督員もいる	[6件 (2.3%) ]
結論を出すのが早かった	[5件 (1.9%) ]
工事積算内容を詳細に説明してくれるなど、以前に比べるとオープンになった	[4件 (1.5%) ]

## アンケート結果

受注者アンケートに基づき最悪のケースを想定



## アンケート等外部からの指摘として

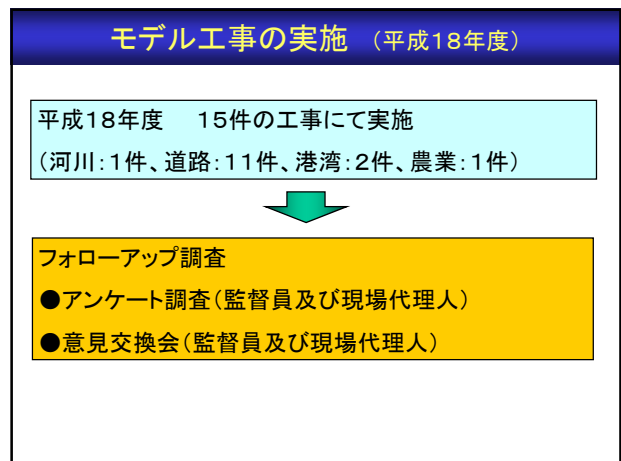
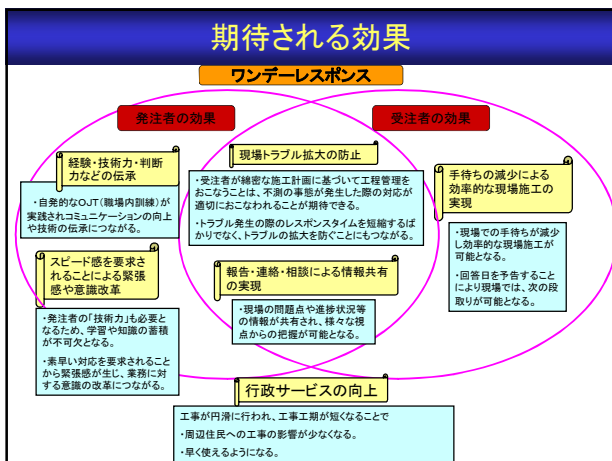
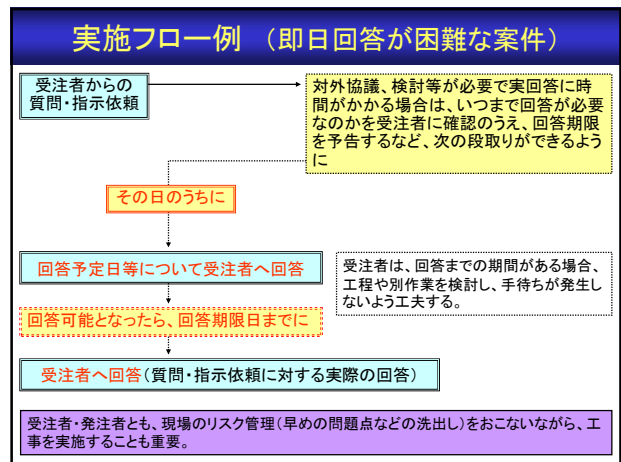
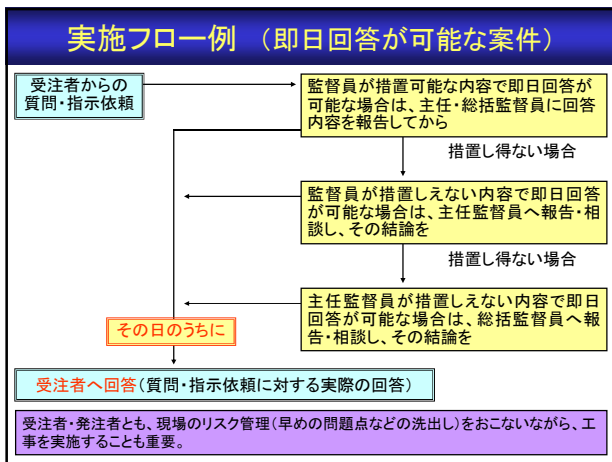
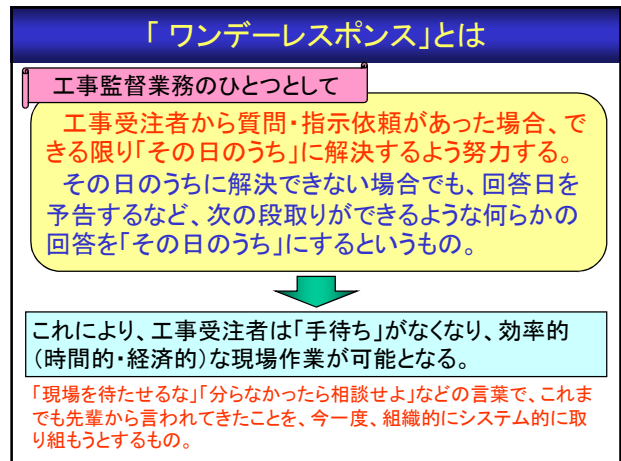
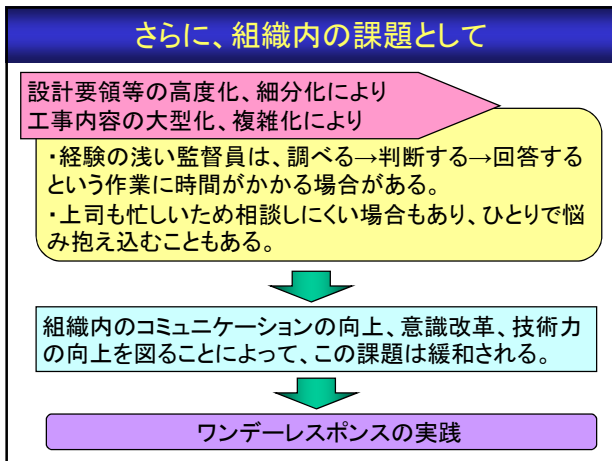
受注者へのアンケート結果から...  
受注者のコストアップ要因として...

- ・発注者の判断が遅い。
- ・指示が遅い、なかなか承認がもらえない。
- ・仕様が不明確。

などの意見がある。

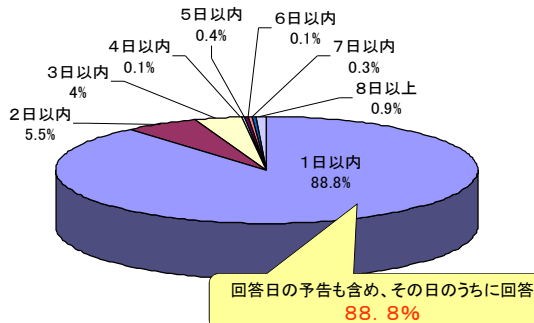
的確ですばやい判断・回答・指示をすることによって、この課題は解消される。

ワンデーレスポンスの実践



## 回答に要した時間 (平成18年度)

【回答に要した期間】



## 受注者側の現時点での評価 (平成18年度)

### 受注者側の評価

- ・待ち時間がなく早い対応が良い、発注者の返答待ちが減少した。
- ・工程管理を厳格に実施するようになった。
- ・指示、回答が早くなり、良好な時期での施工が可能となることから、ロスなく利益が上がると考えている。
- ・工程短縮に関わるものについて優先的に対応してくれるので、効率よく施工ができるようになった。今後、対象工事が増えると官側の対応ができるようになるのか疑問が残る。
- ・質問事項に対する回答が以前より迅速であり、手際よく次の行動に移れるようになり、効率的な作業が出来るようになった。
- ・発注者と受注者合同での週間工程会議の開催及びメール、打合せ等により問題点の迅速な対応ができており、現場段取りに有効である。

※受注者側の「デメリット」は、特に見当たらない。

## 発注者側の現時点での評価 (平成18年度)

### 発注者側の評価

- ・請負者からの指摘事項等に直ぐに対応しなければならず、緊張感を持って業務に取り組んでいる。また、本工事に限らず、他の工事においても同様の心構えで取り組んでいる。
- ・監督員の日頃からの問題意識が向上した。
- ・問題点の優先順位が明確になった。難題や他工事との協議の重複によっては即答できない場合がある。
- ・業者からの質問に対し、早く回答するよう勉強や上司への相談等が早くなった。
- ・工事工程に係る打合せを頻繁に行うことから、後戻りのない計画工程ができる。
- ・即日回答を原則としているが、設計根拠や積算等の確認が必要で時間を要する事が多く、最優先で処理するため他業務を中止して対応するなど、監督職員の負担は若干増加している。
- ・現場への対応について、工程を意識した対応を心がけるようになった。

※発注者側のデメリットは局部的に「監督職員の負担が若干増加する」ことではあるが、今後、ワンデーレスポンスが浸透することにより、「全体としての軽減」が図られるものと考えられる。

## ワンデーレスポンスの効果を高めるために

### 受注者と発注者の協力が不可欠

- 実際の指示や回答に時間を要する内容として、
- ・原位置試験の結果からの判断が必要
  - ・構造的な再計算や再検討が必要
  - ・対外協議の結果待ち などが多い。

これらの内容は、ワンデーレスポンスの実践だけでは解決できるものではないが、現場の問題点を事前に察知し、対応を実施することにより、全体工程に影響が出ることを防止できる。

また、綿密な工程計画のもとに工程管理をおこなうことが前提であるため、受注者も「ワンデーレスポンス」の意義と目的を理解し、協力し合いながら実施していくことが効果を高めることになる。

## 北海道開発局の平成19年度の取組 ①

### ①ワンデーレスポンス実施工事の拡大

- 多くの監督員が「ワンデーレスポンス」による監督業務を体験することにより、効率的かつ質の高い監督業務を遂行できる力を身につけ、「ワンデーレスポンス」がごく普通のこととなるよう取組を強化する。
- 平成19年度は、全工事について「ワンデーレスポンス」を実施することとし、監督員ひとり1件をフォローアップ調査対象工事として登録し、アンケート調査等を実施する。  
フォローアップ調査対象工事件数は 監督員1人最低1件以上 約600件

### ②ワンデーレスポンス効果をより高めるため (発注者と受注者が一体となった取組への展開)

- 受注者による綿密な工程計画の策定とその適正な管理を促すことによって、発注者側の取組と一体となってその効果をより高めていく。
- 対象件数：総合評価(標準型)落札方式全 約50件～100件  
総合評価(簡易型)落札方式(一般競争・公募型)受注者の自主的な取組み 約150件  
合計 約200件～250件を対象とする

## 最後に……まとめ

